

聖徒の道



1月号

末日聖徒イエス・キリスト教会 1958 第一卷 第二号

目 次
聖 徒 の 道

一九五八年一月号

「行為を必要とする福音」

デビット オー マッケイ大管長 一頁

第九代目の大管長

デビット オー マッケイ 三

デビット オー マッケイの家庭に対する一見解 五

「伝道部長メッセージ」

什分の一を忠実に守る者に主は大いなる祝福を賜う

ポール ロ アンドラス 六

服従こそ天国に至る道 J B タルマツチ . 九

「質問欄」

証詞を持つ方法と意義 一〇

「ニュース欄」

新訳モルモン経に就て 一三

あの人、この人の事 一五

東京、横浜地区の組織充実さる 一八

南中央地方部大会 一九

伝道本部より（転任、解任、バプテスマ） 二一

長老の歓送迎会 二二頁

ダンス パーティ（山形） 二三

三宮支部誕生す 二三

岡町の役員異動 二三

扶助協会の催し 二四

北支部長に大塚兄弟 二四

松本の人形劇 二五

東京 LDS 合唱団 二五

お手紙交換したい 二六

「信仰と証詞」

己が信仰 (室蘭) 鈴木正治 二七

天父なる神に感謝す

(三宮) 前 芝 康 夫 二七

大神権者となりて

(西宮) 植 村 茂 夫 二八

モルモン経物語 (四) 二九

◎ 新らしい年を迎えて、心を新たに、義の道をゆたかな気分

で歩み進みましよう。

◎ 昨年は会員も非常に多くなり、まことの教会がようやく人の

口の端にかかる機会に恵まれて来ました。

◎ こうして日本にステーク部が出来、神殿の建立される日が

近付きつつあります。

それには私たちの証しが真実強められることを要請されま

す。

◎ 「教義と聖約」 「高価なる真珠」のほんやく版が出版され

ました。これで聖書、モルモン経、教義と聖約、高価なる

真珠の四大聖典が日本語に完訳されたのです。私たちはこの

四大聖典をくまなく読破することによって益々証しを強くすることが出来るのです。

◎ 「聖徒の道」も第二年目になりました。今やアメリカでも

南米でも愛読されているこの唯一の機関誌を、皆様とともに

完全にしたいと思ひます。御協力をお願い致します。



行いを必要とする福音

デビッド・マツケイ大管長

ある日のこと、少年たちが水泳を習っていた。この少年達のいた所より川の少し下手の方に、少年達の背丈よりもずっと深いところがあった。ある一人の男の子が泳げないことをからいばりして飛び込んだのか、偶然に落ちこんだのか知らないが、どもかく深みにおち込んでしまったのである。この男の子は全く絶望の状態に陥入り、自身で深みからはい上る事が出来なくなつてしまひ、他の少年たちもこの子を救うには全く無力の状態であつた。幸いにも、一人の落ち着きあ

つておぼれかけている男の子の方へさし出した。男の子はその棒をしつかりつかんで、あやういところで助け出された。そこに居たすべての少年たちはみなこの向う見ずの少年は、救いの手をさしのべた男の子のお蔭で生命を助けられたといつた。しかしながら若しこの男の子が差し出された援助を受けず、又すべての努力を払おうとしなかつたら、たとえこのような同僚の思いきつた援助があつたとしても、必ずおぼれ死んでしまつたことである。

普遍的な救い——賜物

長い時代を経たこの世界には、多くの人たちが人生の荒海の中で、遊び、泳ぎ、又苦闘している。若し岸の上に立ちたもうイエスを見つめ、「我信ず」というなら、決して沈んだり、行方不明になつたりすることはないと考えている人たちがいる。そうかと思つたれども彼も自分の努力によつて岸まで泳ぎつかなければならぬ。さもなければ必ず見失われてしまふだろうと考えている人もいる。しかし、この極端な両者の見解は全く正しくないのが真理なのである。死よりの普遍的な救いはキリストの与えたもう自由にして、且つ無償の賜物であるが、神の国に於ける進歩は、個人個人がイエスキリストの福音の原則と儀式に如何に一致した生活をするかに依存するのである。キリストは人の力によらず、すべての人を死より贖いたもうたが、丁度、おぼれかけた男の子がある機転のきく人の差し出した棒をつかまなかつたなら、助けられなかつたように、自分から努力して自分の罪のゆるしを得ようとしないうちに、イエスは決して救いたまわないのである。人は人間の救いのために救主より与えられて、道を受け入れずして決して救われないのである。

福音を与えたもうたキリスト

人の歴史を回顧してみると、人が神の賤い御計画に全く無智であり、この世に於て、靈的に神の御前より遠ざけられてしまつた時代があつたのを知ることが出来るが、自分自身の意志のみに従う時に、人はみな必ず「肉欲、物欲、悪魔に従う者」(アルマ書四十二章十節)となつたのである。即ち、自然が自分の神であり、自己保存——即ち、この世に於ける存在を出来得る限り長びかすこと——がこれらの人たちの人生の唯一の目的であつた。この故にこの世の生活が終る時に——人の靈魂は決して死滅し得るものではないのであるから——この様な人は永遠に失われてしまつたのである。何故なら、これらの人たちは靈的な律法を守ることによつて神の御許に立ちかえることが出来るということを知らず、そうした律法に全く従わなかつたからである。

キリストはかく苦闘しつゝある人間たちに救いの道——福音をお与えになられた。それは自由にして、且つ無償の賜物であり、一様にすべての人に神の恩恵として与えられたのである。

「行為に由るにあらず、これ誇る者のなからん為なり。」(エペソ二章九節)この恩恵がなかつたなら、人間は自らを救うに全く無力の存在であつて、前に述べた如き深みにおち入つた男の子の如く絶望の中にあつたのである。まことに「汝らの救われしは恩恵により」(エペソ二章八節)である。しかし福音が与えられたからと云つて、人間は何をなすように期待されているのであろうか。得る氣持があるなら得られるところにある救いの原則をわれわれはどうしたらいいのだろうか。われわれのなすべきことは、それをつかまえ、全身全霊をもつて維持することである。岸辺に立ちたもうイエスキリストを見、そして「我汝のわれを救いたもうことを信す」と口に出していうばかりでなく、イエスキリストの福音のすべての原則に従ふことによつてこの信仰を自分の知識たらしめねばならないのである。云いかえれば、自己の救いを得るために自ら努力する必

要があるのである。このことこそ、われわれのなす様期待されることである。「我に對いて主よ主よという者、ことごとくは天国に入らず、ただ天にいます我が父の御意をおこなう者のみ、之に入るべし」(マタイ伝七章二十一節)

行いなき信仰

キリストが人間のためにすべてのことをなして下さる——即ち、おぼれている時には綱を投げて下さり、何ら努力をしなくても、その綱を引つ張つて助けて下さるなどと考へて自分を納得せしめるのは愚の骨頂である。福音に關するこの様なあやまつたうわべだけの見解は、使徒ヤコブによつて完全にうちやぶられている。

「わが兄弟よ、人みづから信仰ありと言いて、もし行為なくば何の益かあらん、斯る信仰は彼を救い得んや。」

「人もまた言わん、なんぢ信仰あり、われ行為あり、汝の行為なき信仰を我に示せ、我わが行為によりて信仰を汝に示さん」と

「靈魂なき体の死にたる者なるが如く、行為なき信仰も死にたるものなり。」(ヤコブ二章十四節—二十六節)

物事を知つたり、又單に真理の確實なることを感ずるだけでは不十分である。「人、善を行うことを知りて之を行わぬは罪なり。」(ヤコブ四章十七節)

機会があるにも拘らず、得ることの出来る真理を實踐せず、心の良き思いをいゝ表わさず、良き行いをしない時は、自らを自分で虚弱にせしめているのであつて、将来に於て良き行いをしたり、良き思いを言葉に云い表わすことをもつと困難にさせるであらう。しかしながら、常に良き行いをし、高貴な感情を言葉に云い表わす時には、次の機会にも、そうした良き行いをしたり、良き感情を言葉に云い表わすことが、もつと容易になることを知るのである。

永遠の生命は人に与えられた神の最大の賜であり、これを得ることによつて主は人の不死不滅の中に栄光を加えたものである。永遠の生命は知識の結果であり、知識は神の御心をなすことによつて得られる。救主は「どのようしたら汝を救主と知ることが出来るか」と尋ねた一懐疑論者に次の如く云われた。「人もし御意を行わんと欲せば、此の教の神よりか、我が己より語るかを知らん」と。(ヨハネ伝七章十七節)このようにして、キリストの神性と永遠の生命とが神の御心をなす時に得られる結果であるという真理が宣言されているのである。

この考えは予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示を思い起させるものである。

「この故に、今や神権者皆各々その義務を寛れ。また己が任命せられたる務めを全く勤勉に勤むべし」(教義と聖約百七章九十九節)自分の義務が何であるかを知っているにも拘らず、その義務を履行しない人は、自分をいつわっている人であり、兄弟たちに対しても誠実の友でなく、又神と良心の与える光明の中に生活を営んでいない人である。このことは実にわれわれに関係あることであつて、われわれには特に意義あることである。即ち、私の良心が規定された線に沿つて行くことが正しいと私自身に教える時、それに従わないなら、私は私自身に対していつわりの気持をもつことになるのである。もしわれわれのためにすべてをなしたまうのであるから思い思いの生活をし臨終の床にあつて、単にイエスを信するなら神の輝やかしき御前に救われ、であらうという考えは全く有害なあやまつた考えである。世の救主なるイエスキリストは、人間が天父なる神の國に於て永遠の幸福と平和とを得るための方法を与えなもうておられる。しかし、人間は福音の永遠の原則と儀式とに従順なることによつて、自己の救いのために努力しなければならぬのである。

才九代目の大管長

デビット・オーマン・マツケイは一八七二年九月八日、ユタ州、ウエーバー郡ハンツヴィルに生れた。彼はスコットランド、ケイスネスより改宗したデビット・マツケイ(監督)の長男で、八才の誕生日にピーター・C・ギアットセンよりバプテスマを受けた。彼の教育はまず父親より農場経営について教えられ、又ハンツヴィルにある小学校にも通つた。子供の頃の彼の日常の仕事は家畜の世話、特にスキを引つ張らせるために使う馬の世話をするのであつた。

ハンツヴィルの小学校を卒業すると、ウエーバー・ステーク学院に入學し、卒業後ユタ大学に席を置いた。ユタ大学からは優等の成績で一八九七年に卒業した。一八九七年八月一日、セイモア・B・ヤング長老より七十人の職に任命され、次いで英國の諸島に伝道した。彼はスコットランド地方部で働き、この地方の責任者としての地位を与えられ、こゝですばらしい事業を完遂したのは、彼がこの地に到着してから間もなくのことであつた。この伝道より一八九九年九月に帰還すると、彼はすぐにウエーバー・ステーク学院で教鞭を取るようになり、其の後指令によりこの学院の院長となつた。教会に於ても彼は常に活潑で、教会の青年男女に対して強い愛情を持ち、彼らの福祉をたえず考え、特に日曜学校の事業には測り知れぬ大きな奉仕をしたのである。こうした彼の熱意は高く評価され、後にウエーバー・ステーク部日曜学校の管理会長に任命された。彼は一九〇一年一月二日、エマ・レイ・リッグス嬢と結婚し、五人の息子と二人の娘(一人の息子死亡)の親である。

一九〇二年に開催された教会の一大大会に於て、デビッド・マツケイは十二使徒会の三つの空席を充す一人として召された。他の二人はジョージ・P・リチャーズ、ホルソン・P・ホイットニーであつた。彼は一九〇六年四月九日ジョセフ・P・スミス大管長よりこの職に望



最も大きく、且つ最も壮大なものである。(写真は大管長の若い頃)

マツケイ大管長の家庭に対する一見解

すべての家庭には、肉と霊とがあります。諸君は、近代の芸術、又は富の与え得るあらゆる装飾をつけた美しい家を持つことが出来ず、又人の目を楽しませる外形をもつ家を建てることも出来ませんが、しかし、それでも家庭をもつたということにはなりません。愛が無ければ決して家庭ではないのです。あばら屋であつても、小屋であつても、テントであつても、その家の中に正しい精神……キリストの眞実の愛、即ち父母の子供に対する愛、子供の親に対する愛、及び夫婦間の愛……が存するなら、末日聖徒のうちたてる家庭の眞実の精神をもつことになりません。家庭の中に何が欠けていようと、また次の二つの質間に肯定的に答えられるようであればなりません。まず諸君の家庭の中に純粋さが存していますか。定期的に朝の

管長によつて献堂され、最後の日(十四日)の日は午前中のみの集りにとどまつたが、あとの三日間は午前、午後二回に亘つて集りが開かれたのである。この神殿は今日までに建てられたところのすべての神殿の中、

祈りが捧げられていますか。自分の聖なる使命を破棄し、社会改良を促進するために家庭に於ける必要な義務を怠るような家庭は、極めて不幸な家庭であります。

私は眞実のモルモンが純粋なる家庭であることを心から感謝して居ります。若し、純粋でなければ、世の人がどう考えようとも、末日聖徒の家庭ではありません。私たちは末日聖徒の生活がどうあるべきかを知っていますし、又その家庭が純潔なる子供たちを生み出すところであることを知っています。私たちが世の人々に対して末日聖徒の家庭は神の如き家庭であると証しすることの出来るのは、私にとり大いなる喜びであります。私たちの間に世の人たちを汚したり、又は隣人を利用するような人が居るとすれば、それらの人たちは末日聖徒の家庭の影響を受けた人たちではなく、家庭外のところで影響を受けた人たちであると云うことが出来ます。親としての責任をもつ皆さん！皆さんは末日聖徒であります。私たちの家庭を美化せしめようではありませんか。家庭を出来る限り感惑的なところとせしめるのは正しいのであります。家庭の内部に愛をはぐくみ、健全な雰囲気を保つことが必要です。母親が子供たちを養育するにあたって全く無能力であると感じたり、又は家庭を乱す外的な状態が存するなら、母親の学級へ行き、子供たちに悪影響を及ぼす社会的な状態を克服するために近隣の人たちと協力して下さい。家庭の中に愛を保つようにしようではありませんか。

教会内外を問わず、マツケイ大管長は理想的な家族の人であり、常に教会員に神の定められた結婚と家庭の意義を納得せしめようとして居る。

伝道部長メツセージ

自分の一を忠実に守る者に
主は大いなる祝福を賜う

伝道部長 ポール・C・アンドラス

主イエスキリストを信ずる信仰は福音の才一原則であつて、信仰がなければ神を喜ぶことができないことを私たちは知つて居ります。「信仰なくしては神に悦ばるること能わず、そは神に来る者は、神の在すことと神の己を求むる者に報い給うこととを、必ず信ずべければなり。」(ヘブル書十一章六節) 私たちは口でだけ信仰があると言ひ表わすことは実際に信仰がある充分な証拠ではないといふことを知つて居ります。私たちは、自分の信仰を実際にあらわして見せるためには善い行いをして見せなければなりません。別の言葉で言えば、真の教会の教えを実際にふみ行わなくてはならないといふことを知つて居ります。「わが兄弟よ、人みづから信仰ありと言ひて、もし行為なくば何の益かあらん、斯る信仰は彼を救い得んや。

もし兄弟姉妹、裸体にて日用の食物に乏しからんとき、汝等のうち、或人これに『安らかにして往け、温かなれ、飽くことを得よ』と言ひて体に無くてはならぬ物を与えずば、何の益かあらん。斯のごとく信仰もし行為なくば、死にたる者なり。人もまた言わん『なんじ信仰あり、われ行為あり、汝の行為なき信仰を我に示せ、我わが行為によりて信仰を汝に示さん』と。なんじ神は唯一なりと信ずるか、斯く信ずるのは善し、悪魔も亦信じてわななくけり。ああ盛しき人よ、なんぢ行為なき信仰のいたづらなる知らんと欲するか。我らの父アブラハムはその子イサクを祭壇に献げしとき行為によりて義とせ

られたるに非ずや。なんぢ見るべし、その信仰、行為と共にはたらし、行為によりて全うせられたるを。またアブラハム神を信じ、その信仰を義と認められたりと云える聖書は成就し、かつ彼は神の友と称えられたり。斯く人の義とせらるるは、ただ信仰のみに由らずして行為によることは、汝らの見る所なり。また遊女ラヘブも使者を受け、これを他の途より去らせたるとき行為によりて義とせられたるに非ずや、靈魂なき体の死にたる者なるが如く、行為なき信仰も死にたるものなり。」(ヤコブ書二章十四節―廿六節) 真の福音の教えが数多くあつても、私たちは神を喜ばせるために、また毎日の生活で神の祝福を受けるために福音の教えをことごとく実地に行うように努めなくてはなりません。しかしながら、私たちはみな人間であつて不完全でありますから、真の教会の教えをみな完全にふみ行うことはできないことでありましょう。神はこれを御承知でありますから、もし私たちが本当に試みるならば私たちの有つてゐる短点をたつぷりと赦して下さいますにちがいありません。それでも福音の諸原則の中には完全に守らなくてはならないものがあります。誰でも本当に守ろうと試みる人はみなこれらの原則を完全にふみ行うことに成功することができます。

この約束を守る者は物質的にも満足を得ん。

自分の一の原則はこれらの守らなければならぬ教えの中の一つでありますから、今新しい年を始めるに當つて私はあなたたちと共にこの自分の一を考えて見たいと思ひます。これにより、私はこの伝道部に於ける神の真の教会の会員の一人のこらすにはつきりと申します。もしあなたが忠実に完全な自分の一を納めるならば、神はあなたの心に喜びと満足とを与えて豊に祝福したまい、また食料、衣服、住居およびこの世の物質的生活に満足を与えるものを下さつて豊に祝福したもうにちがいありません。しかし、もしあなたが忠実に完全な自分の一を納めないならば、あなたは心に喜び、満足を得

ることなく、またあなたは神から盗んでいるので、

「ひと神の物をぬすむことをせんやされど汝らはわがものを盗めり汝らは又何において汝の物をぬすみしやといえり什分の一および献物に於てなり。汝らはのろいをもてのろわるまた汝ら一切の国人はわが物を盗めり。わが殿に食物あらしめんために汝ら一切をすべて我倉にたづさえきたれ而して是をもて我を試みわが天の窓をひらきて容べきところなきまでに恩沢を汝らにそよぐや否やを見るべし萬軍のエホバこれを言う。我かみくらう者をなんぢらの為に抑えてなんぢらの地の産物をよぶららしめん又なんぢらの葡萄の樹をして時のいたらざる前にその実をはたけにおとさどらしめん萬軍のエホバこれをいう。又萬国の人なんぢらを幸福なる者ととなえんそは汝ら楽しき地となるべければなり萬軍のエホバこれをいう。」(マラキ三章八節―十二節)

「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」(教義と聖約 八十三章十節)

サタンはあなたに完全な什分の一を納めることが非常にむづかしいと思わせるにちがいないので、あなたは什分の一を納めることができないと思う時がたびたびあるにちがいません。

これらの時こそ本当にあなたが神の祝福を最も必要とするその時であります、もしもあなたが自分の納めるべき什分の一を納めないならば、あなたは神の祝福を受ける権利を失うにちがいません。

収入のあつた時その一割をまず支部長へ渡しませよう

今私はあなたに、いつも完全な什分の一を納める助けとなるにちがいない実際のきまりを教えませよう。あなたは、何ほどでも収入があつたときいつでもすぐにその一割をとつて別の封筒へお入れなさい。そして、できるだけ早くそのお金をあなたの属する支部長へお渡しなさい。あなたが得たその収入の中から、生活費や借金を払わないうちに什分の一として収入の一割をとりのけることが大切です。什分の一として納める一割をとり出してこれを別にとりのけてから、あなたは残りのお金を生活費その他の支払いのために使うべきであります。

まず才一にあなたの納めるべき什分の一をとりのけるといふこのきまりにいつも従うことによつてあなたはいつでも完全な什分の一を納めることができるにちがいません。

これに反して、もしもあなたが後から什分の一を納めようという考へでまず請求書のお金や生活費をみな払おうとするならば、あなたは什分の一を納めることができる前にお金がつかりなくなつてしまつていふことがわかるにちがいません。従つてあなたは什分の一を少しも納めないことになつてしまふのであります。

このきまりを簡単に言い表わせば「まず什分の一」ということになりす。

もしもあなたが、納めるべき什分の一を才一に納めるならば、主は必ずあなたを祝福なさいますから残りのお金であなたたちは充分に費用が払えるにちがいません。

収入が支出に足りない時でも払う者には必ず祝福がある。

あまり前のことではありませんが、その教箇月前にバプテスマを受けた教会の一会員から私のところへ電話がかかつてきました。

私がその姉妹の名前をたずねますと、その方は名前を申したくないとの答えでしたが、一つたずねたいことがあるとのことでした。私が、それではおたずね下さいと申しますと、その姉妹はそれから私に説明をし始めて申しました。

その姉妹は自分の払わねばならない金額を総計してこれを受取つた金額と比べてみると払わねばならないものをみな払つてしまふだけのお金がありませんでした。そこでその姉妹は私にたずねて、

このような場合にはその姉妹の納めるべき什分の一を納めないことはよくないことかどうかと申しました。

私たちはみなこのような立場に自分たちがいることをたびたび見出して払わねばならぬ金をみな払うだけのお金がないという、これと同じ問題に直面するにちがいません。言葉を換えて言えば、私たちはみなお金が足りないことを知るにちがいないということであります。

これらの時がいつもより一層神の助けと神の祝福を必要とする時であります。従つて、これらの時こそいつもより一層確實に完全な什分の一を納めねばならぬ時であります。もし私たちが什分の一を納めないならば、私たちは神の祝福を最も必要とするその時に祝福を受ける権利を投げすててしまふにちがいません。それで私はこの善良な姉妹に納めるべき什分の一をまず第一に納めなさいと忠告をして、もしもその姉妹が私の忠告に従ふならば主が祝福を下さいますからその姉妹は払わねばならないお金をみな払つてしまふことができるにちがいないと約束をしました。

私の父が苦しい時代にも什分の一を実行した実例

私は一人の少年として、私の家族の中に起つたいろいろな経緯によつて什分の一に就いての証しを親しく得ました。

私の母は私が十才の時に亡くなりまして、その当時私の年上の兄弟は十一才、三人の年下の兄弟は各々八才と六才と二才でありました。それで私の父は、父親としての義務に加ふるに家族の母となるように努めなければなりません。父は当時ある銅精煉工場で働いていましたが、その時はアメリカのひどい不景氣時代でありました。父の受取る僅かなお金は、請求書をみな支払ひ、家族の者に食を与え、着物を着せるに足りませんでした。私たちはなかなか苦しい時代を経験しましたから、このような事情の中で私の父が什分の一を納める代りに自分の子供達の衣食のためにお金を使うこ

とはぎびしい誘惑であつたことを私は思い起します。什分の一を納めたら、勘定書に金を払い、家族のために食料を与えるほどの金は十分に残らないことを知つた時、父が什分の一を納めるには本當の信仰を必要としました。しかしながら、父はほとんど例外なく忠実に一割をとつてこれを什分の一として監督のところへ納めましたが私は奇蹟的に主が私たちを祝福したもうて、どうかして残りの金で暮して行けるようになしたもうたことをはつきり思い起します。

私はまた、父が納めるべき什分の一を納めないで、その金を家族の入用のために使つた時には、父が什分の一を納めていた時よりもつとひどい時を経験した二三の場合をおぼえて居ります。

私は、神が必ず祝福を下さることを知つていますから、納めるべき什分の一を忠実に納める者に神が祝福を与えたまわなれど誰も私に言うことはできません。私はもしあなたが納めるべき什分の一を完全に納めるならば神はあなたたちを豊に祝福したもうにちがいないと証しをいたします。しかし、もしあなたが納めるべき什分の一を納めないならば、あなたは神の祝福を受ける権利を失います。

神は現に生きたまひ比類なき能力を有したもう。神は福音の教えをすべて実践しようと思實に努力する神の子たちを祝福するとき喜んでこの能力を用いたもう。この故に毎日毎日福音のすべての教えを実践するよう熱心に努めようではありませんか。しかし、われわれの什分の一を納めることを怠らないよう非常に気をつけようではありませんか。それには信仰が要るが、われわれの財政上の問題に就ておそれることなく忠実にわれわれの什分の一を納めようではありませんか。それにはぎせいを要するにちがいない。しかし、ぎせいは天の祝福をもたらすものであります。さきに引用したマラキ書三章十節にあるように、主は天の窓を開いて、忠実に什分の一を納める者皆の上に受け入れる余地のないほど大きな祝福を注ぎたもうにちがいません。われわれのすべてが什分の一を忠実に納める者の中に数えられるように心より祈り奉る。

「見よ、人の子の来るまで今より後を「今日」と称えられる。誠に「今日」は犠牲の日、わが民の「自分の一」を捧ぐる日なり。この「自分の一」を納めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし。「今日」を過ぐれば火に焼かる時来らん。われ主の言方によりて語る、われ誠に告ぐ、明日すべて高ぶる者と愚を行ふ者はわらのごとくにならん。われは万群の主なれば、彼らを火にて焼きつくし、すべてバビロンに留まる者一人も助くることなからん。この故に汝らもしわれを信するならば、「今日」と称えらるる中に汝らの働きをせよ。」

(教義と聖約 六十四章廿三節―廿五節)

服従こそ天国に至る道

J・E・タルマツヂ

「罪から救われる唯一の道は服従である。」「天国に至る門は、わが主キリストの犠牲の死と、その復活とによつて開かれたものであるが故に、何人も自ら進んで「福音」の中に定められたおきてと儀式とに従ふことなしには、そこに入ることは許されない。」これはモルモン教会が正しいと考える基本原理である。

キリストはかれに従うすべての者に与えらるべき永遠の救いの造り主となり給うた。神は「めいめいに對しその行へに従つて報いられるのである。即ち、忍耐して、善い行いをなし、栄光と朽ちないものとを求める人たちには、神は永遠の生命を与えられるのである。そして徒党を結び、真理に従わず不義に従う人たちには、怒りと憤りとをもつて臨まれるであろう」というのは、神には偏見がないからである。」

モルモン教会は、また、かくして「救い」は、信仰と行為とによつて万人の手に入れ得るものとなつたと言ひ、それが決して、将来の幸福と栄光の条件が皆均一であることを意味するのではないことは、丁度この逆の立場で、人の魂が非の眞言をうけたと

いうことが、決して、そのおそれるべき、しかも当然の報いをもたらした人々すべてにとつて同一の悲惨な、絶望の状態を意味するものではないのと全く同様である、と説いている。

われわれは世上に流布している極めて反經典的教説、即ち、復活した靈魂の永遠の住家は唯二つ、天国と地獄があるのみであつて、各人は一肉体をもつて生活をしてきた時代の損益勘定表にあらわれたマーシンのいかに僅少であろうとも、そんなニユアンスは全く無視して「たゞ善人か悪人かに二分され、それぞれ天国か地獄かに送りこまれる」という教説を受け入れるわけにはいかない。

まことに人となり給うたキリストは「私の父の家には住居は多い。そうでないとすれば、私はあなたの方へ言つた筈である」と仰せられている。

われわれが次の世で送る生活というものは、われわれが今この世で送つている生活の厳密な結果となつてあらわれるものである。それ故、今の世の人々が、それぞれ信仰をもつて真理に近づき、或いは又罪に身をまかせ、その度合が様々である以上、当然、墓の彼方に存する世界にあつてもいろいろな段階があつてよい筈ではないか。

救いは、「向上」ということにおいていくつもの等級に分たれている。すべての靈魂は己の備する場所とその住家を見出すであらう。モルモン教会は、神よりの啓示にもとづいてこう断言する。即ち、人間の靈魂には「栄光の段階」がいくつか備えられている。これらの段階は上から順に「日の栄光」「月の栄光」「星の栄光」であつて、各々の栄光は其中で又無数の段階又は等級に区分されている。かくして神の摂理にあつては、進歩には限界がないということが定められているのである。

質問欄

証詞を持つ方法と意義



「質問」
証詞を持つということはどうゆうことか。
「解答」

証詞はイエスキリストの福音を確かに信ずるといふ宣言である。即ち知識の最も高尚な形式であり、其理が知らされ、それが人々によつて従われる時に啓示としてもたらされるものである。証詞は律法と一致するもので、一度得られた証詞は人生の目的を説明し、日々の業務を明らかにし、且つ人生に熱意を与えるのである。証詞は突に人間の主なる所有物である。

如何にして証詞を得るか

では、如何様にして証詞は得られるのであろうか。

証詞をたてるためには、現実には二つの条件が必要とされる。「第一」は真理を求めようとする熱心な願望がなければならぬということである。この願望は、其理が見出される時に、たとえ、現存の教えや伝統に相反するものであつても、受け入れられるべきであるという願望を示すものでなければならぬ。「第二」は、真理を探究するに當つて必要とされる援助が未知の世界へ主より来るものでなければならぬということである。即ち併りによつて主に援助を求めねばならぬのである。この二つの条件が充たされるなら、証詞を得るための「戸」は必ず広く開けられることである。このような基を根本として、証詞を得るための追求が福音の研究に伴つて開始されるのである。

まず、真理を適切に証明するために、福音の原則を知らなければならぬ。これはすべての原則を知りつくすということではないけれども、人はそのもてる知識の範囲内に於て其理を証明することが出来るのである。このことは如何なる知識の探求にあつても其理であり、例えば若い化学者は、科学の網羅する広大な分野の一部のみしか知らないかも知れないが、その学習し得た分野に關しては、確実な証明を与えることが出来るのである。

しかしながら、知識それ自体だけでは充分ではないのである。如何なる人でも書物や教師から直接に福音の原則を理解するよう学習することが出来るのであるが、それだけではまだ信ずる人とはならないのである。則ち不信心な人なのである。又同じように多くの人々は教会の教える福音を知ることが出来るが、しかしそれだけでは、その福音の表面のみに留つてゐるに過ぎないのである。

知識だけでは不十分であるということは、次の使徒ヤコブの言葉によつても明らかにされるであらう。

「……なんじ神を唯一なりと信ずるか、斯く信ずるは善し、悪鬼も亦信じてわなまけり」(ヤコブ書二章十九節)

誠に悪鬼(魔)も、救いの計画が天父なる神によつて開かれ、明らかにされた時、即ちあの前世の大会議に出席していたため、このことを知つていたのである。しかしながらこうした知識を持つていただけで、自分から試し、実践しようとしなかつたため、前途に横わる未来に対して恐れをいだいていたのである。

知識が活用された証詞

学習されたものは、何であつても徹底的にためされ、生活過程の中に活用されねばならぬのであり、さもなければ、それが其理か否かを決して知ることが出来ないであらう。福音に關する知識についても同様であり、若し生活の中に取り入れられなかつたら、その証詞は空虚な、生命のない証詞となつてしまふであらう。

知識が活用される時のみ、福音の真理に対するまぎれなき理解、及び全き理解が得られるのである。

短く云えば、知ること、及び行うことの両者こそ、われわれが普通証詞と呼ぶ神よりの啓示に至る道なのであり、知ることだけでも、又行うことだけでも不可能なのである。このことは使徒ヤコブの大きいなるメッセージである。

「汝は神がただ一人であると信じているのか、それは結構である。悪鬼どもでさえ信じておののいていよ（ヤコブ書二章十九節）」

従つて、末日聖徒の伝えるメッセージの真理なることを知り度いと欲する者は、まずそのメッセージの求めるところに従う生活営む必要があるものであり、例えて云うなら知恵の言葉を自ら守ることによつて、その原則の真理か否かをたしかめ、又自分の一の律法を守ることによつてその律法の真実であるか否かをたしかめねばならないのである。この方法（即ち知識を自ら行動に表わすことによつてのみ、その持てる知識の真理か否かが証明されるのである）。

しかしながら、この世的な智慧ある人であつても、このことを行わない人は証詞を受けられないばかりか、福音の原則に關して意見を述べる特権さえも失つてしまひ、自分の知らぬ事や、ためさなかつた事柄を評価することが出来なくなつてしまふのである。

この原則には、何ら真新しいところもない。我々はみな天文字に關する書物をよんだり、他の人たちの評述するところに耳を傾けたりして天体と宇宙の広大さ、及び秩序正しきこと等について感動を覚えるのであるが、その知識が願望に目ざめ、そして天を自ら個人的に探求しようという決心をさせるなら、その時こそ我々は天文学者になり得るのである。天文学者は科学に自らを没頭せしめているのであり、書物だけに留ることなく、望遠鏡をのぞいたり、分光器の周波数帯を調査したり、又あらゆる可能な手段によつて宇宙の大きさとかくされた部分をつきとめようとしているのである。

こうした時に、天文学者は天文字に対する証詞をもつことが出来るのである。

知ること、及びそれを行うことという両者より生ずる証詞の中には、あらゆるすべての知識が含蓄され、この証詞によつて、正しい行いでも、又あやまつた行いでも、すべての行いを評価することが出来る。このような証詞こそ福音の律法に従ひ、そして福音に基ずいた生活をする事によつて報いを得たいという心からの願望を目ざめさせるもので、このような証詞がなければ、人間は常に暗黒の中を歩まねばならず、未來に關して恐怖と不安をいだかねばならないのである。

証詞を保持する方法は

如何にしたら証詞は保持されるものであろうか。

証詞というものは、知識と知識の応用という両者より構成されるものであるから、生きていゝ（生命ある）ものである。故に、決して岩の如く静止の状態を保持するものではない。小さな証詞はより大きな証詞となるし、大きな証詞でも時によつては小さな証詞となつてしまふのである。故に証詞はたえず、世話を施され、培われねばならないのであつて、証詞を常に強くするようにつとめることが我々自身にとつて一番大切なことである。

第一に証詞を保持するために、我々はいつても証詞に多くの食物を与えてやらなければならぬ。その食物というのは証詞を得るための段階を意味するのであつて、願望、祈り、研究、実行がそれである。真理を得んための願望は我々のすべての行いに大きな印象を与えるべきものでなければならぬし、あらゆるすべての事に於て神よりの援助が求められねばならぬし、福音の研究はたえることなれ去られるようであつてはならないのである。

証詞を保持しようとする人は、いつも福音のたえざる研究を

しなければならぬ。昨日学んだことだけをもつて永遠に生きようなどと考えるのは愚の骨頂であり、日々研究を重んずることによつて、光明に光明が加えられ、理解力は増大するのである。我々の世界は特に変化多い世界で、たえず偉大な真理を新しい変化した状態の下で活用することが必要とされる故、以上のことは特に重要なことである。

証詞を保持するために、福音の原則の活用が必要とされる。即ち、福音の知識を増大せしめるなら、その福音の律法をもつと応用するという気持をもたねばならないのである。

以上のような方法により、証詞は保持され、より増大して、自らを導くところのものとなり、且つ人生によるこびをもたらずものとなるのである。この他に証詞を保持する方法は一つない。諸君の廻りにいる人々について考えてみよ。証詞を保持するために、このような方法をとつている人を見たことがないだろうか。そのような人たちと生活を共にすることは、何と良いことではないだろうか。

何故に証詞が失われるか

では、如何にしたら証詞は失われてしまうであろうか。

証詞は生きているものであるから、死ぬこともある。我々は悲しいかな、証詞を失つてしまった人を目のあたりに見ているのである。

証詞に導くところのすべてを捨て去つてしまふ。証詞は除々に消え去り、全く失われてしまふであろう。我々にとつて、かつて我々は極めて強い証詞をもつていたということが重要なことではない、その強い証詞をいつまでもどのようにして保持して行くかというところが最も大切なことである。

証詞は、神との接触——祈りを忘れてしまうことにより失われ勝ちである。このような状態の下では、福音を学び、それを実践しようとする気持は弱められ、聖なる誓約は失われ、福音の研究がないがしるにされて、これに代るこの世的な活動が取り入れられて来る。

又教会にはますます不活潑となり、目はとざされて、人生の律法が忘却されてしまふ。

弱められつゝある証詞に対する悪摩の力は実に多いもので、普通優越の感情、ほこりたかぶりの気持が他のすべてのものをおよいかくし、やがて証詞は全く失われるに至る。即ち個人的の願望、欲望が常に人間の生活を破壊せしめるものであつたのである。このようにして人生の靈的面がおびやかされるのである。

これは最もしばしばであるが、同じ信仰を持つている人の欠点やあやまちによつて証詞の失われてしまうことがある。即ち監督、ステーク部長のすべての行いが他の人に与える影響は極めて大きいのである。

死滅しつゝ証詞は容易に認められる。例えば、教会の組織、儀式に無関心となり、日曜日に映画を見に入つてしまつたり、聖餐式に出席せず又智慧の言葉を忘れてコーヒーを飲み、自分の一も納めなくなつてしまふ。

やがて、証詞は全く失われ、このために心は不安と混乱によつてかき乱されるのである。このような人は最も貴重なものを失つてしまつた人であり、これに代る何物も見出すことが出来ないのである。即ち、内的な自由——律法に従ふという賜物を失つてしまつたのである。

汝ら互いに相愛するように心がけよ。食るなかれ。而して福音の命する如く、互いに物をわかつようになれ。怠惰なるを止めよ。不潔なるを止めよ。互いに欠点を探すを止めよ。度を過ぎて眠るを止めよ。早く臥床に入りて疲れを休めよ。朝は早く起きて汝の肉体と精神とを活気づけよ。

(教義と聖約 八十八章百二十三節—百二十四節)

二ユース欄

新約モルモン経について (承前)

佐藤 龍 猪

第七の続き。前号にひきつずいて旧訳モルモン経にあつた言い表し方を変更した個所を次に挙げることにします。

ヤコブ書(カツコ)の中の数字は本書中にその語が表れる回数)

章 節 旧訳 新約

一 十九 天主(二十一)

二 二十五 腰の突

三 十一 火と硫黄との池

四 十三 御霊(三)

六 七 神の善き道

六 八 キリストの善き道

六 十 火と硫黄との池

六 十一 直き門

七 廿六 寂しく沈みたる者

イノス書 天主(十一)

ジエロム書 天主(四)

オムナイ書 天主(十三)

モルモン言 天主(三)

御霊

主 「みたま」

アルマ書

一 廿四

二 廿八 聖徒の組合

四 四 天主(二百四十二)

四 四 浸礼(十四)

五 五 三千五百人

五 五 聖班(十九)

五 五 神に生れたり

五 五 悪魔の群

五 五 御霊(三十六)

七 七 マリヤは抱えられて

七 七 エルサレムにて

七 七 神の小羊

九 九 死後の罰

十 十四 状師

十 十四 義人等の祈禱

十 十四 シユム

十一 十一 靈魂

十一 十一 火と硫黄との池

十二 十二 レーマン人の時計にて

十八 十八 人類の原墮落

十八 十八 靈魂

十九 十九 女に生れ

十九 十九 神に生れ

廿二 廿二 救の道

廿四 廿四 神の群

廿六 廿六 贖救の道

廿九 廿九 キリストは在るべからず

神の民たち

主

バプテスマ

三千五百人

神糧

神の子になつている

悪魔の羊の群

「みたま」

マリヤは神の能力に覆

わかれて

エルサレムのあたりで

神の子羊

身も霊も永遠に神の前

より断ち切られる罰

法律業者

義人たちの祈り

シヤム

靈魂

燃える硫黄の湖

レーマン人の時刻で

人類の始祖の墮落

靈魂

女から生れ

神の子となり

救いの計画

神の羊の群

贖いの計画

キリストは来りたま

冊	四十二	汝は偽を語る心を 持ち	汝は偽を言う蓋につかれて いて	五	廿四	御霊	「みたま」
冊四	九	大いなる道	大計画	八	十四	銅(二)	黄銅
冊四	十三	廃せらるること宜 しかるべし	止める必要がある	八	十八	神の聖班	神の神権
冊四	十六	大いなる贖救の道	偉大なる贖いの計画	十三	十一	彼方此方	右と左
冊四	廿六	小羊	子羊	十三	八	我道	わが言葉
冊六	四	精神上の力	霊の力	ニーフアイ第三書	十九	我に託せずして	我に託さずして
冊六	五	神に生れざりせば	神によつて生れなかつた	一	十二	天主(廿八)	主
冊六	廿三	神に生れて	神によつて生れた	一	廿三	浸礼(廿九)	バプテスマ
冊六	廿六	神に生れ	神によつて生れ	九	十五	天父(百廿五)	御父
冊八	廿八	ライアホナ	リアホナ	六	廿七	状師	法律業者
冊八	六	神に生れざりせば	神によつて生れなかつた	七	廿一	御霊(四)	「みたま」
冊十	六	靈魂(廿六)	霊	八	廿二	脱(火も)	救われず
冊十	十二	樂園	パラダイス	十一	廿四	死後の罰を受くべし	狭き門
冊十二	五	大いなる救の道	偉大な救いの計画	十四	十三	直き門	聖霊によらざれば
冊十六	十三	よろいを腰に纏い	物の具を腰にまとい	十五	廿三	聖霊の我に代りて現るる	・現われず
冊十六	廿一	腰によろいを着け しまま	腰に物の具をつけたまま	十八	一	葡萄酒	葡萄酒
冊十八	六	脱(陣を払い)		十八	一	葡萄酒	葡萄酒
冊十九	卅	神の聖班	神の神権	廿	五	葡萄酒	葡萄酒
冊十九	卅	神の聖班	神の神権	廿	八	葡萄酒	葡萄酒
冊五十	四十	パホーラン(廿)	ペホーラン	廿	十六	獅子(三)	若き獅子
冊六十二	四十五	天主の群	主の教会員	廿六	十五	死より蘇らせて	死から蘇生させて
冊六十二	四十五	天主の群	主の教会員	廿六	十五	教会若し我名を有ちたら	これをわが名によ
冊六十二	四十五	天主の群	主の教会員	廿六	十五	ば	りて祈らば
冊ヒラマン書				廿七	九	其門は直くして	その門は狭くして
冊一	二	パホーラン(十二)	ペホーラン	廿七	卅三		
冊二	四	組合(十二)	団				
冊三	廿六	天主(八十三)	主				
冊四	廿六	浸礼	バプテスマ				

あの人、この人の事

(帰還宣教師たちの消息を……)

ロスアンゼルス市にて

岡内 千恵子
五十嵐 利郎

(一) 二ヶ月前私は忘れ難いBYUのキャンパスを去り映画の都として名高いカリフォルニア州ロスアンゼルス市に移動し、カリフォルニア大学に籍を置く事になりました。こちらに移つてすぐ近くのウイルシャー・ワード部に出席しましたら、何んと私の宣教師時代同じく伝道に従事して居られた仙台出身の岡内姉妹(旧姓梅津千恵子姉妹で岡内兄弟の奥さん)が居られ、日本の事で話題を賑やかにしました。丁度姉妹の手許にあつた「望徒の道」を拝見し初めてEDSメツセンジャーが改題されたのを知りました。私も此処の様子を一度御知らせ申し上げ度いと思つて居りますと云う岡内姉妹の言葉に刺戟され、それでは一緒に帰還宣教師の御様子でも御知らせ申上げ様と拙い筆を取つた次第です。

「光蔭如矢」とは月並な言葉ですが過去を顧みる者が、誰しも感ずる新たな感慨であるかと思ひます。シオンの地を

ふんで一年十ヶ月其の間多くの方々より日本の状勢、教会の発展状況を御知らせ戴きながら御無沙汰甲上げて参りましたので、この機会と紙面を御借りしてその負債を繕い度いと思ひます。

私が渡米の途に着きましたのが、一九五五年のクリスマスを向える二日前の十二月二十三日でした。師走の寒さに加えて期待と希望と未知の土地に赴く不安で身体の震えを抑える事が出来ませんでした。刻一刻と迫つて来る孤独感に加えて塵と紙屑とが寒風に震え舞う港の棧橋は一層私を臆病にさせ華やかな見送りの音楽や騒音も空々しいものに感じさせられて居りました。家族の者と私が乗船を待つていますと、思い掛けなくも、伝道時代赴任地であつた甲府より清水兄弟がわざわざ見送りに来て下さつたので大層勇気付けられ感謝したものでした。

船中同室の隣りの寝台にアメリカ人が居りました。英語会話の練習に絶好とばかり、自己紹介から始まつて身上話に移つた訳ですが当然の事として次の様な会話が交されました。
「アメリカには何しに行くのですか。移民」
「大学に行くつもりですが、唯学問だけではなく宗教やアメリカ人の生活態度を学び度いと思つています。」

「それは素晴らしい、で御予定の学校は？」
「多分アメリカ人の貴方でも聞いた事がない

かも知れなしと思ひます。カリフォルニア州にある、
「ブリガムヤング大学です。」

「ブリガムヤング？では貴方はEDSですか？」
「え、そうです。私は日本でモルモンの宣教師をして居りました……」

「突を云うと私もEDSで兵隊になる前は二年BYUに出席して居ります。」
世の中は案外狭いものだなあと云うのも本

当のことです。其れ以後彼の話によると日本人と結婚して帰國の途中だが妻は未だ教会の会員ではない、一つの教会の教義を一通り説明してやつて呉れないかと云う訳で一二度御会いし話して差上げたのですが、残念な事に悪阻と船酔のため真青になつて始終寝て居られたので、納得が行くまで御話し出来ませんでした。でも今はもう元氣になられ予定のラスベガス市で御主人や御子さんと一語に教会に出席して居られる事だろうと思ひます。

途中ハワイに立寄りましたが前記清水兄弟が連絡して下さつたとかで船中までケカオへ兄弟が出迎え来て下さりふくいくたる香りのレイを掛けて下さつた時、そのどつしりとした重みが心の底を押し、胸が一杯になつた記憶を未だはつきりとよみがえらす事が出来ず。

紺碧の海、濃緑のパーム樹、白色の砂浜とローヤル・ハワイアンホテル、ピンクのモア

ナ・ホテル、色とりどりの花、果実、等々は
ハワイで教会員の示して下さった数々の好意
と共に忘れ難いものです。私を教会に導いて
下さり且新潟で最初の宣教師だったカラマ兄
弟が御仕事を早目に切り上げてハワイ神學や
教会の大学に御案内下さいました事又BYU
で十八年間も教授をして居つたと云う学長の
ウイリアム兄弟より種々御教え戴いた事も良
き思い出になつて居ります。

ケカウラニ姉妹、城田姉妹、竹内兄弟にも
御会い致しました。竹内兄弟の家では丁度御
正月の餅つきとかで思い掛けずもアメモちを
腹一杯御ちそうになりました。池上兄弟は細
工会議所のパーティーの招待があり御忙しかつ
たにも拘らずレストランへ招いて下さつたり
小野姉妹が案内に参加して下さつたり。但
し当時ケカオハ兄弟と婚約中だったのですか
ら案内役のケカオハ長老が本命であるかと考
えたのは私の邪推だったのでしようか。
ハワイでは全く教会員の親切が身に浸みる一
日を過しました。ハワイに分れを告げた翌日
船中で腹痛のため半日ベットで過しましたが
これはケカオハ、竹内、池上兄弟の好意のも
てなしの故で決してドールハワイアン・パイ
ンナップル会社無料サービスのパイナップル・
ジュース飲過ぎの結果ではなかつたと固
く確信致して居ります。
一九五六年一月六日サンフランシスコ着。

当日は船中で知り合つた友人の好意に依り一
廻りサンフランシスコを案内して戴き翌日バ
スにてソートレーク向けて出発。少々心配だ
つた会話も Well, well, 丈で未だ何も
云わない先に総てを察してくれるアメリカ人
の理解の良さに安心して、バスがカリフォル
ニヤとネバダの州境を通過した頃はもう眠り
におちいつてしまいました。眠を覚まして窓
外をながめると丁度日の出で浮き出されたソ
ートレーク神殿が見られましたので訳なくス
ート豚にでも帰つた様な気持でバスを降りた
のは、何時も写真で神殿を見慣れて居つた故
でしようか。黄金色の天使モロナイ像は同色
の光祿に照らされ、その威厳ある神殿の突塔
が空に影を投げかけている様は正にこれこそ
神の殿であると云う確信で満たされました。
サンフランシスコや其の他の町をサーキットな
がめた丈で何も知らない筈の私にとつても正
しく区劃された町並、紙屑等多く目に付かな
いソートレークの町は美しいものに見えたのは
それが教会員である事や初めてソートレーク
に着いたと云う感激を相当割引しても正しい
観察であつた事が後周辺の州や町を廻つてみ
るに於んで解つて参りました。

三

BYUの所在するプロボ市はソートレーク市
より四十五哩南下した地点にある人口約三万
五千の静かな学生町です。強いて学生町と云

わねばならぬ理由は一万人を超える学生（
この中には多くの結婚した学生が含まれ
て居り其の大多数は子供がある）それに六
百名にも昇る講師、助教、教授及其の家
族を考慮に入れるならこの町全体が何等か
の形で大学に關係があると考えて良いから
です。夏休になると映画館は閉館するし、
バスも運行停止、ステーションワゴン（
普通の車より少し大型の乗用車で八人位乗
れる）に Summer bus（夏のバス）と録し
た看板を下げて走ると云つた具合です。ユ
タ州ではどの町でも見られる特徴ですが
正確に区劃された町並手入の良く行き届い
た芝生や前庭に植えられた樹木が其の儘街
路樹となり、歩道に枝を垂れ、時には私の
様に背の低い者で腰を曲げて通らねばなら
ぬ程です。（それなのに誰も葉をむしつた
りする者のない事はなんと嬉しい事ではし
ょう。）部厚い本を腕一杯抱えて若い学生が
ひようひようと歩く町。時を告げる学校
の Chime（鐘）が讚美歌を町中に響き渡ら
す町。これがプロボです。BYUはチャ
ーニユーズやインブルーメント・エラで
御承知の方も多いでしょうが全く驚異的発
展を見せて居り私がこちらに来てからでも
日本円にして十億円程の女生徒用寄宿舎が
完成、それに家庭科会館（Family Living
Center）がやはり同額で完成、現在では五百

三十万弗(円貨約二十億円)の男性用寄宿舎が建造中です。今年春モルガン、アンダーソン、デトン各長老が続々兄弟に還つてBYUに顔を見せられました。三年前学生だつたモルガン兄弟は学校があまり変化し何処に何があるやら解らず、新米の筈の私が登録のためやら本、学用品の購入のために案内して上げた次第でした。

(四)

一九五六年冬(期)学期に出席しました時吉野兄弟が丁度アイダホのリツクス・カレッジより転校して居られました。計らずして有馬兄弟とは同じ家に住む事になつたのですが学校及教会其他種々の活動のため御話する機会は一ヶ月に二、三あるのみだつたのは本当に残念な事だつたと思つて居ります。何故ならそのすぐ後有馬兄弟は他所に移動され、更に後にはオレゴン大学に転校されたからです。

BYUで御会いした方々を思い出す儘に記してみますと、最初にチエームス兄弟が挙げられます。学校に通い始めたばかりの頃休憩の時間になると良く私の英語のクラスに現われ流ちょうな日本語で同室の韓国人(朝鮮人はほとんど全部が日本語ができます)を驚嘆させて居りました。彼も今はBYUで最優秀学生で美しい女学生と結婚され、今年三月には御父さんになられました。

たし六月には目出度く学校を卒業されました。卒業直前教会で御会いました時はカリフォルニアでセールスマンのトレイナーになるかも知れないと云つて居られました。

ニコルス兄弟は修士号取得のため末日聖徒日本伝道部の歴史を研究課題にされ、帰還宣教師に質問書を送つて調査されたり、又学校の特別蒐集部で明治時代に出版された日本語の書籍を読まれたり(その為時々私は御手伝をする榮譽を担つた)熱心に勉強されて居られました。

プロボで最初に御会いし学校に染むまで種々御世話になつたケニー兄弟は結婚、御子さん、御卒業と御目出度続き。彼には思い掛けなくロスアンゼルスでワイルシャイワード部で御会いし、その奇遇振りに驚き相いました。今度はハリウッドに移られる予定ですからもう御会いする事も少くなるでしょう。

マンク兄弟は卒業後前伝道部長ロバートソンが課長であるBYU物資購入課で働いて居られます。確か御子さんはもの静かな奥さんとの間に御二人居られたと思ひます。

オーソン兄弟も化学技術専攻学生としてBYUに居られますが丁寧に教えて下さるので大分英語の御手伝いを戴き感謝申し上げます。

ている中の一人です。

赤毛のアトキン兄弟はやさしい奥さんとの間に御子さんが一人。相愛らず熱心に非教会員の日本人学生や韓国留学生に伝道したり、わざわざ日本から小学生読本を取り寄せ勉強するなど熱心なものです。現在は夜病院で御仕事をしながら修士号のため学んで居られ、やがては博士号を取つてBYUか可能なら日本で歴史を講ずるのだと云つて居られました。

其他ケカウラ姉妹ギャンブルス、ダーフイー兄弟にも御会いしましたし今年三月ダイフイー兄弟の結婚式に招待されましたが出席出来ず残念でした。夏期休暇中友人訪問の途上ドイツから帰国されたばかりのカナヘレ兄弟に御会いしました。日本語は相変らず上手く、翻訳官だつたと云われましたからドイツ語もペラペラになつて居られたのだと思ひます。

御存知の方もあると思ひますが吉野兄弟は昨年大学四年の学生部長Sr. C. Pres. に選挙され、今年は奨学資金を得引続き修士号のためコロネビア大学に行かれた模様です。池田姉妹も八月の卒業直後電気技術科(Electrical Engineering)出身のアメリカ人と結婚されました。又旭川出身で永く東京と横浜に居られた俵兄弟が今年春姿を見せられたのには、びつくりしました。

学生以外ではスベリー兄弟(ソートレイク市役所勤務)パーカー兄弟(ソートレイク市乳業

会社勤務) スミス兄弟(ユタ大学卒業後

その儘ユタ大学勤務現在税理士になるため
勉強中) 岡部兄弟(ソートレーク市にて
薬剤士) クラーク兄弟(海外経済社プロ

ボ支店勤務) マックダニエル兄弟(アメ
リカンフォーク市立小学校教師のかたわら

B Y Uにて修士号取得のため勉強したり農
業もしたり中々忙しい方です。御子さんは
一人) ハリス姉妹等多くの方に御会致し

ました。
クレイン兄弟は現在オレゴン大学歯科で
歯医者さんの修業中ですがサンデイゴ(カ
ルフォルニア南端の市)の海兵隊に居ら
れました頃二ヶ月に一、二度休暇を貰つて
奥さん(中学校教師)の居るプロボへ帰つ
て参られました。が何時も家に帰る前に私の
所に立ち寄り話していかれるのが常でした。

又御記憶の方も多いでしょう。以前L D S
メツセンジャーに「B Y U 便り」を寄稿に
居られた伊賀護兄弟に、二度ソートレー
ク市の日本料理店で御会い致しました。伊
賀兄弟はユタ大学で博士号を得られ、現在
ユタ大学で講師(助教授かな)をして居ら
れます。驚くべき努力家で不眠不休の勉強
のため質問にあつた教授室で卒倒したと云
う逸話はB Y U で仲々有名なものです。

ロスアンゼルスに参つてからはヒル兄弟
(五)

に経済的なことから教会の事、町の案内に到
るまで敢々御世話になりましたが、嫌な顔一
つせず良く御世話して下さいますので本当に
感謝致して居ります。現在アメリカ航空会社
の技術部で技師をして居りますが三十才にな
る今まだ独身、現在盛んに花嫁探求中で時々
私に話を持掛けて参りますが女性の方には至
く縁の薄い私であつてみれば何の話相手にも
なれず弱つて居る所です。そうロスアンゼル
スではハワイ滞在時御世話戴いたケカオへ兄
弟姉妹(小野姉妹)に御会いし食事に御招待
戴きました。が丁度ハワイから参られた竹内姉
妹や金白姉妹と御一緒して日本の思出話して
備しい一刻を過ぎたものでした。その中にア
ダムス兄弟やドツド兄弟ともすぐ御会い致し
たいものと思つて居ります。

こう書いて参りますと何か名簿を読み上げ
ている様な或は私が食事に招かれた報告書み
たいで何奴は食い意地の汚い奴だと思われ
るかも知れませんが、どうしても自分と関係の
深かつた方と過ぎた時の印象が強い為である
と御理解戴ければ幸いです。又出来る丈簡単に
然も多くの人々をと思つて行会いした方が多
い文に自然名前の羅列に過ぎなくなつてしま
います。ではすぐ又カルフォルニアの様子を
少し御知らせする時まで。

ロスアンゼルス神殿の見える下宿にて
一九五七年十月二十三日

東京横浜地区の組織 充実さる

シオンのステイキ部を東京、横浜に一日も
早く作るうとは伝道部長のかけ声ばかりでな
く、信者達の真摯な念願でもある。神権によ
つて組織されたステイキ部にあつて、教会は
まつたく地上の王国であり、その神よりの恩
恵は、数えきれぬものである。

そのステイキ部を一日も早く作るうとする
計画の一端としてこの十二月八日西支部を皮
切りに東京、横浜五支部に新に宣教師を含ま
ぬ支部長会が組織された。

又、ステイキ高等評議委員会の前身とも云
うべき地方部評議委員も新に四名選ばれ一段
とステイキ部の様相を程して来た。

この組織の充実で態勢のとのつた東京、
横浜地区の今年には希望の年となりそうである。
次に新評議委員と新支部長会を紹介し、この
役員達の今年の働きを期待すると共に神が彼
等にお導きあらん事を祈るものである。

◎評議委員(支持順)
野口善二郎兄弟 (西)
高木富五郎兄弟 (北)
奈良富士哉兄弟 (中央)
佐藤 龍猪兄弟 (中央)

◎支部長会(支持順)
I 東京西支部長会 I

支部長 田中行平兄弟
第一副支部長 中村 朗兄弟
第二副支部長 秋元利夫兄弟

一 東京北支部長会
支部長 大塚昌治兄弟
第一副支部長 勝また剛男兄弟

一 東京中央支部長会
支部長 今井一男兄弟
第一副支部長 礮確正三兄弟

一 横浜支部長会
支部長 鈴木正三兄弟
第一副支部長 渡部正雄兄弟
第二副支部長 沢山正義兄弟

一 東京南支部長会
支部長 渡辺かん兄弟
第一副支部長 中東幹夫兄弟
第二副支部長 佐藤 汎兄弟

南中央地方部大会

神戸市三宮に初めて開かる
南中央地方部大会は十一月十六、十七日の両日、神戸市三宮の歯科医師会館に於てアンドラス伝道部長管理のもとに百二十余名の出席を得て開催された。今大会のテ

マは教義と聖約五十章二十三、二十四節の「人を導かざるものは、神によるものにあらず暗黒なり。神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従ふこといよいよ久しき者は、その受くる光明いよいよ明らなり。その光明いよいよ明かとなりてついには完き屋となるべし」

神戸での大会は初めてである。アンドラス伝道部長は「神戸で大会を開くのはよいことだ。これからも神戸で大会を開く方がよいと思う。神戸という文字は神の戸と書く大変よい字です。その神様の戸口となるものは唯一、真実の教会、末日聖徒イエス・キリスト教会である」と言われたが、実際に素晴らしい、祝福された伝道の土地である。尚、この三宮支部に早くも十七日（大会当日）早朝に多数、会員の祝福をうけて前芝康天兄弟、いな川健兄弟が誕生し、植村茂天兄弟がメルケゼデク神権を授けられ長老の職に按手聖任されました。

（指導者会）十六日午後三時三十分よりフーバ地方部長の管理のもとに開かる。最初にフーバ長老より「具体的に分析してみたい指導者のあり方について」図表を示し、正しい指導者のあり方について分析し強調された。後会長会、教師会、書記会の三つに分かれ各責任に依じて学び、語り合い、検討し、建設的な資料の交換や司会者の注

言等によりて各自の責任に於いて認識を新にし五時に閉会した。

（M I A大会）花輪の門をくぐると室内は五色のテープや提灯等で飾られ六時三十分よりアンドラス伝道部長夫妻の出席も得て開かれた。フォークダンスを中心として、その合間合間に各支部の腕によりをかけたタレントの発表があつたがいずれも各支部の特長を十二分に生かした優れたものであつた。先ず「金沢支部」はキリスト降誕の話を朗読しその間に美しい合唱を混えたもの「名古屋支部」は姉妹だけのミュージカル劇だがよく準備されていてM I Aにふさわしいものであつた。次の「阿倍野支部」は名古屋とは逆に兄弟四人からなる合唱は美しいハーモニーを奏で大変上手だつた。

「岡町支部」は前二者の中間をとり男女仲良く四人ずつ出てフォークダンスを披露した。

（神権会）十七日午前九時、フーバ長老の司会で開かれ亀井秀明兄弟が「神権の力」山本雅男兄弟が「会員や役員のお志口をいつてはいけない」植村茂夫兄弟が「罪の報酬は死な道部長より「あなたはどうなすか？それを忘れてはいけません」という印象深い力強いお話をされた。

そして「我々末日聖徒は神の子、王の王子王女であり、神の國の國民である。更に男子

は神の権能をもつ民である」ことを強調された(扶助協会) 井奈喜代子姉妹の司会で上野山恵美子姉妹は「神権者から与えられた責任は神からのもので全力を尽して働こう」田中重子姉妹は「会員の悪口は勿論だが、特に求道者の悪口は謹しもう」中橋章子姉妹は「罪によつて人間は墮落した」と三人からのお話があり、続いてアンドラス姉妹は「扶助協会は神から与えられた世界で最も秀れた組織の会である」とその必要



性と機能について説かれた。
 (一般大会) 司会者安芸兄弟より開会の挨拶があり、続いて成田好和兄弟は「自分の信仰と証詞について」証は経験より生ずると証をし、富山高治兄弟は「智恵の言葉についてこれが神の教えであり心身両面の清めである」と強調した。児玉昌姉妹は「悪い遠境をさけ、よいものをよいものとして受け入れる備えを常にし、捨てる生活をしてよいものに自分を集中したい」と証しを

された。アンドラス伝道部長は再び「あなたはどなたですか？それを忘れてはいけません」と力説し、その為に必要な原則と条件を述べ、「それに従う私達末日聖徒は全て変人と世の人より呼ばれる。しかし変人とは変つた人ということなら末日聖徒は新しく生まれ変わり、悪い生活より正しいよりよい生活に変つていく人、即ち変人である、私は変人と呼ばれること、又その言葉は好きである」と私達の信仰と勇気を喚起して下さいました。

(聖餐式) 午後二時より柳田兄弟の司会によつて始まり証の時間の中間に二支部のコーラスが入り、次々と末日聖徒の力強い靈感に満ちた証が述べられ、最後に三宮文部において最初に誕生した二人の兄弟から心からの喜びと信仰の証をきくことができた。そしてアンドラス伝道部長は「末日聖徒は変人である。しかし、それは感謝すべきものであり悲観すべきでない。我々が正しく歩む時、道は完全に備え開かれている」と東京の礫碓兄弟の経験を証して下さいました。

(家族の夕) は今大会において最も大きな恵みであつた。先づ今井富子姉妹は「理想的な夫として女性が男性へ望む事」と題して全未婚女性の立場より末日聖徒としての立場から理想的かつ現実的な夫の資格について話され、代つて「理想的な妻として男性が妻として男性が女性に望む事」と題してフーバー地

方部長は自分が実際に考え求めている理想の女性について語り、「心の優しい人と結婚したい」と前置きして永遠の結婚、純潔、子供の幸福は母親の幸福ですとの三点について話された。次にアンドラス姉妹が「末日聖徒の理想的な家庭における妻の役割について」先づ母親という素晴らしい特権と義務の与えられたことを感謝しますと前置きして十字架にかけられたお方が救い主イエスキリストであると子供に教え、金で買えない大遺産を子供に与えること、永遠の家族を保つ為に親は子供の模範者となる。家庭を秩序と愛の存する安息所とする等々、実に靈感に満ち溢れた極めて印象的な話であった。次にアンドラス伝道部長は「末日聖徒の理想的な家庭における夫の役割について」理想的な夫たるには先ずLDSの会員たる事、私見ではあるが会員外の人の結婚はさけた方がよい。夫は家庭を作る目的を知る事それは霊に肉体を与え進歩する様に導く事、衣食住を充たすこと、夫婦は二身一体で妻は副家長だ。一家共に行動する、家庭の基は救いの計画であると話された。かくして南中央地方部大会は主の恵みと導きのもとに盛大裡に過ぎましたことを心から感謝致します。(植村茂夫)

伝道本部より

「転任」

氏名	新任地	旧任地	「任命」
サマリス	新地	東京中央	オルム
ナルアイ	ナハ	東京中央	アンドーセン
スタウト	ナハ	東京中央	ノーマン
リツシュマン	東京東	東京中央	キング
モーン	東京西	東京中央	ウイタカ
クラウズ	甲府	東京西	ポール
ジョーンズ	金沢	東京西	遠藤
ブロツク	東京中央	東京中央	浅田
ステイル	東京中央	東京中央	ウツド
バートン	前橋	東京北	ジョーンズ
クリスチャンセン	柳井	前橋	リチャードポーター
高橋	西の宮	柳井	ゴープ
ラリーポーター	西の宮	柳井	ヒルズ
グリフィン	岡町	岡町	「任命」
ボウマン	東京北	岡町	高橋長老
ターナー	東京中央	東京中央	カメコナ長老
トンブソン	東京中央	本橋	ヘイル長老
ゴースリンド	小樽	前橋	オルム長老
ハアグ	東京南	東京北	アンダーセン長老
山本	名古屋	岡町	ノーマン長老
山本	松本	本橋	「解任」
山本	松本	本橋	ヤング・ブム・リー長老
「到着」			
オルソン姉妹	札幌	岡町	ヘンリー・タカオ・高橋長老
ライ姉妹	岡町	福岡	トマス・ロナルド・ハアグ長老
ムア姉妹	福岡	札幌	チャールズ・ロバート・グリフィン長老
ウアーシン姉妹	金沢	札幌	ジェン・山県長老
キラウアノ姉妹	金沢	金沢	ロバート・ナルアイ長老

ウオーレス・ボウマン長老
 ジェリースティール長老
 ラリー・ゴーカー長老
 「バプテスマ」

鳥羽 ときを (東京中央)
 五十嵐 茂野 (東京中央)
 伊藤 すすみ (東京中央)
 前田 章子 (東京中央)
 柴田 泰子 (東京中央)
 早川 静美 (山形)
 相馬 好夫 (三宮)
 前川 康久 (三宮)
 くに川 千徳 (室蘭)
 高橋 正猛 (東京北)
 浜添 泰造 (岡町)
 西本 智津子 (東京西)
 阿部 ティ子 (東京西)
 長尾 リユウ子 (新潟)
 辻山 茂樹 (礼幌)
 大城 弘樹 (礼幌)
 植原 栄子 (東京中央)
 新井 智枝子 (東京中央)
 早川 蘭子 (高崎)

高橋 ミツ子 (山形)
 富田 千恵子 (柳井)
 富田 晶子 (山形)
 近井 明雄 (福岡)
 永代 正俊 (福岡)
 田寺 いく夫 (東京北)
 正野 英繁 (東京北)
 藤井 艶子 (東京北)
 加納 芳一 (松本)
 山口 桂子 (岡山)
 永野 あつ子 (岡山)
 阿部 美代子 (仙台)
 樋口 久江 (仙台)
 本和 修子 (小樽)
 柴田 修男 (小樽)

長老の歓送迎会

結婚式。倉沢一兄弟と、田畑宏子姉妹の
 結婚式が九日アステン長老の祝福により行
 われました。シン中央地方部長をお迎えし
 て、参加者は八十名に達し、厳粛なうちに
 も和やかに、新しいモルモン家族の誕生を
 祝いました。
 歓送迎会。一年近くの間、支部の進歩
 と発展のために尽されたアステン長老が、

名古屋支部へ転勤のため、送別会と、本部か
 ら新しく支部長として赴任されたテリー長老
 の歓迎会とを兼ねて十日にパーティが開ら
 れました。

大掃除ピクニックと送別会。二十三日秋晴
 れの一日、教会の大掃除ピクニックが行われ
 ました。支部大会にそなえて、教会堂はピカ
 ピカに磨かれました。その夜七時から、日曜
 学校の第一副会長であり、又信者の先生とし
 てよく私達を導いて下さった田中兄弟がBY
 Uへ留学の為め渡米されるので送別会を開き、
 田中兄弟が健康に恵まれてよい勉強が出来ま
 す様一同心からお祈りしました。

訪問者 二十四日。本部からテルフォード
 長老とシャムウエイ長老、又大阪からはるば
 るみえた田中兄弟の妹さんの二人の姉妹、そ
 して横浜支部で最後に伝道され、ハワイへお
 帰りになる遠藤姉妹など多くの方々の証詞に
 満ちた素晴らしいお話を聞き出す事が出来
 て、一きわ盛大で素晴らしい聖餐式をもつ事
 が出来ました。

バプテスマ。熱心な求道者であった杉本安
 子さんが三十日バプテスマを受け姉妹となら
 れました。新しい兄弟姉妹が生れるたびに、
 一同神様の大きな祝福を感じております。

横浜 (倉沢)

ダンスパーティー

十一月三日、夜七時半から山形支部の宣教師宅でフアイヤースライドを開きました。ロー長老のスライドを見せて頂き、その後聖書の中の事柄によるゲームを致しました。

バプテスマ。高橋みつ、富田昌子さんは十二日朝早く清らかな馬見ヶ崎の流れでバプテスマを受けて姉妹となりました。

また二十三日には相馬好美さんが新らしく兄弟になりました。

ダンスパーティー。三十日建設資金のために県農協ホールを借り受けて、ダンスパーティーを致しました。私達はこの試みは始めてでしたが神のお守りにより会場は満員となる事が出来盛大な会として、成功致しました。(草壁園子)

三宮支部誕生す

此の三宮支部が誕生してまだわづか二月余りにしかならないが、最初の日曜学校が、十月六日、フリーバー地方部長、ダルトン長老の手で開かれ、又、I.A.A.の集会在

七日、岡町、阿倍野西支部の会員に依る、てきばきとした指導の下に開かれてから、行事は着々と目覚ましい進歩を表し、此の短期間中に早やくも二人の兄弟、三人の姉妹達がバプテスマに依り新に誕生したことは我々にとつて非常に喜ばしく、力強い事で

あります。

其の上、十一月十六日には南中央地方部大会が我々の集会場である齒科医師会館にて、アンドラス伝道部長管理の下にまず金と緑の会、次いで翌十七日には神権会、扶助協会、一般大会、聖餐式「家庭の夕べの会」が次々に責任者達の手で開かれ、楽しい神の愛に包まれた寮囲気の内、有意義な一日を過す事が出来たのも、我々三宮支部に属する者にとつては実に素晴らしい恩恵と一同心から感謝して居ると同時に、アンドラス伝道部長を始め、他の多くの兄弟姉妹達からうかがつた立派な教えと、熱烈なる証詞の一つ一つを心に深くきき込み、一日も早く、他の支部に劣らぬ良き三宮支部を設立しようと、一同大いに張切つて、研究を続けて行く決心で居ます。

十二月八日の集會にて日曜学校会長と、二人の副会長が選定されました。十二月二十一日には新に五名もの会員が誕生する事に依つて、此の支部も一層力強くなる事でしょう。

ポール支部長を初め、岡町、阿倍野両支部の会員達の今後共変らぬ御協力を、我々一同心から願つて止みません。

(山口展子)

岡町の役員異動

(十一月十七日) 秋期南中央地方部大会に於て植村兄弟アンドラス伝道部長よりメルケゼデク神権を受け、長老の職に聖任さる。

(二十一日) M.I.A.の夕食交換会とダンス(バプテスマ)二十四日の朝、北みのお山中の清流に於て坂本泰造君、支部長ウエタカ長老に依りバプテスマを受けられた。

(同日) ウエルチ第一副伝道部長とシヤムウエイ第二副伝道部長と共に訪問せられ聖徒の為に最も良きお話しを承わる。

(同日) フリーバー地方部長より西宮支部開設の発表があり、それに伴れて安芸、植村、中川宗幸、田口、安井、細田各兄弟、日高、田添姉妹等区域の線に依る異動の発表あり特に岡町支部にありて熱心なる兄弟姉妹達なるため皆々驚く、但し中川兄弟のみ都合により来年二月迄岡町にとどまられる由。

(訪問) 十一月二十四日、仙台支部の阿部兄弟来阪の御り、当支部を訪問せられた。

(送別会) 廿四日午後六時半より、札幌へ転任せられるオルソン姉妹と、西宮支部へ行かれる。六兄弟二姉妹との為めの送別会を開催せられる。各自お別れに際してのお話し五分間づつ承わる。後高橋長老の御出身地、カナダの美しいカラースライドを見せて頂き、(見送り) 札幌へたたれるオルソン姉妹を廿六日夜大阪駅に見送る。午後十一時差にも

かかわらず多数の見送り有り名残りを惜しむ。後任としてライト姉妹福岡より着任せられた。

(たべよう会) 三十日夜扶助協会主催にて開催。スパゲティ料理とサラダゼリーとで大成功。

(教師聖任) 十二月一日、田口、阪本弘両兄弟教師の職に聖任さる。

(役員異動) 西宮支部開設に伴うて、当支部役員の大異動ありたるが新任は次の通りである。

- (新任)
- 上野山兄弟 (日曜学校会長)
- 川口兄弟 (同 第一副会長)
- 長野姉妹 (同 書記)
- 村川姉妹 (同 会員の組の先生)
- 市田姉妹 (子供の日曜学校の主任)
- 高橋兄弟 (MIA 第一副会長)
- 古矢兄弟 (同 第二副会長)
- 坂本泰造兄弟 (同 書記)
- 森岡姉妹 (同 会員の組の先生)
- 宇佐見姉妹 (同 演説部の指導者)
- 安済兄弟 (同 演劇部の指導者)
- 富山姉妹 (扶助協会書記)
- 上野山姉妹 (初等日曜学校の責任者)
- 秋元富佐姉妹 (扶助協会第一副会長)
- 北岡姉妹 (同 第二副会長)
- (長老異動)

高橋長老は西宮支部長に転勤せられ、後任としてポーター長老来任せられた。

(岡町 坂本 幾代)

扶助協会の催し

◎・室蘭支部の十一月行事

フアエアサイド。十一月三日夜希望の映画音楽を集めてのレコードコンサートと絵による望書物語質問会を行い楽しく過しました。(出席十七名)

扶助協会特別プログラム。清水姉妹司会により、石井兄弟、エリス長老、西谷姉妹吉田姉妹、吉川姉妹から「会員家庭の教育につき神権者の父親の立場より」「モルモン教徒の家族について」「会員同志の結婚について」「神権の必要性」「永遠の生命を得るために」について各々すばらしい有益なお話しとコーラスがあり、一同強い証を得たことを感謝致します。(十日)

バプテスマ。家庭の主婦である粟谷川千代さんが十七日バプテスマを受けられ新しく姉妹が誕生しました。また長い間求道者だった高橋正徳君も二十四日新たに兄弟に誕生されました。

MIA 交換夕食会

梅津兄弟忠考により楽しい霧田のうちに夕食会を終り、その後数組に別かれて歌のシリトリを行ったりその他のゲームをし

て一夜をすごしました。出席十六名(二十日)

支部予算獲得パーティ。二十三日は勤労感謝の日にあたつていたので、エリス長老よりお話をしていただきました。長老の発案による風変わりなヒロイン・パーティをし、引続き種々のゲーム遊びをしてなごやかに夕べの一時を過しました。(十八名)

執事に聖任。川崎兄弟が二十四日アロン神権の執事に聖任されました。

(室蘭 鳳崎 英三)

北支部長に大塚兄弟

わが支部の秋季大会は十二月八日午前九時から目白洋裁学園においてアンドラス伝道部長管理の下に開かれました。「されど信仰なくば汝何事も為し得ざることを忘るなかれ」の大会テーマは会員一同に深い反省をよび起し、始終感激裡にプログラムを進め午後三時四十分この意義ある大会の幕を閉じることが出来ました。集う者四十八名、ささやかなれど聖霊に満たされた集いでした。進行概要は次の通りです。

◎神権会(午前九時)高木兄弟司会の下に山田五郎勝また剛男、昼間修一郎三兄弟のお話新後閑長老と大塚兄弟の二重唱。そしてシン中央地方部長の力強い証詞に一同敬虔な気持ちに充たされる。

◎扶助協会(九時)相良姉妹司会の下に、佐

藤さみ姉妹のお話。コラヌ「親しみ語らわん」。功刀えい子姉妹のお話に一同み恵に感謝を新たにす。

◎一般大会（十時より）新後閑義雄長老司会の下に正寺いく夫、福田正勝両兄弟のお話。中央支部の大塚昌治兄弟の意義深い興味ある説教、シン地方部長のメッセージを伺つて会場はとみに「みたま」に満たされる。

◎聖餐式と証詞会（午後十二時半）高木富五郎兄弟を新たに評議員会々員に望任する支持を提議し、また東京北支部長に新たに大塚昌治兄弟を、第一副支部長に勝また剛男兄弟を望任する旨を提議して一口の支持をうける。

かくして聖餐式を続行して証詞会に入る証詞会では兄弟姉妹十余名の強烈なる証しがあり、最後に伝道部長の力強いメッセージに会員は心から主を讃美して四時頃漸やく散会。

祭司望任。山田五郎、屋間修一郎、福田正勝の三兄弟はアロン神権の祭司に昇進し十二月十五日望任された。

クリスマスパーティー。十二月二十五日夜渋谷の会堂において「たべよう会」を兼ねて開会、和やかに楽しい一夜をもつた。

松本支部の人形劇

十一月中央地方部長シン長老管理の下に松本支部において秋季松本支部大会を開いた。MIA主催の人形劇「チビツクロ、サンボ」は興味深く参会者一同に感銘を与え



た。（写

真はその

記念撮影

（前列左

から川上

湊両姉妹

栗岩さん

グツトマ

ン長老シ

ン地方部長、松本姉妹、田内兄弟（中列左か

ら片桐、須山、久保田、百瀬、沼尻、深沢、

川船各姉妹、鎌倉兄弟（後列左から徳竹さん

吉田、山田、坂本各姉妹、スタウト、リツ

ユマン、両長老）

◎庭球選手、当支部の坂本てつ子姉妹は六ヶ

月前にパプテスマをうけられたが、かねてか

ら長野県庭球選手の一人として活躍せられて

います。（写真は坂本姉妹）



東京LDS合唱団

「みんなが歌う音楽会」に出演

千代田公会堂

明本京静、安西愛子両氏の指導する指導音楽学校は、美しい音楽を通じて、自己を修練すると共にその職場に明るい音楽を起そうとする運動の指導者の養成機関であるが、十二月一日、午後五時より第三期の卒業式が東京千代田公会堂で「みんなが歌う音楽会」という名のもとの卒業演奏会と共に行われた。

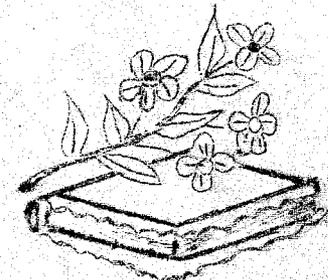
信 仰 と 証 詞

己が信仰

室蘭支部 鈴木正治

私は現在ある事を痛切に感謝し、心からの満足感に浸つて居ります。これに似た状態は、三年前の夏、即ち私が天国の門を叩いた時から私の心の何処かにひそんで居た事ではありましたが、従来、殊に青年前期の私はひたすら一つの目的の為に、他の一切、青春をすら忘れ去り、前進のみを思い続けて参りました。その結果、私は常に内攻性の強い性格の人間として成長するに至りましたが、敢えなくその目的は最後の一瞬にして、砕け散り、全てはそれ迄持つて来た努力と共に水泡の如く消滅し去りました。その当座の私は、全くの虚脱状態に陥り、単に「愚かなる存在」を感得したに過ぎませぬでした。

しかし、天父と私の間、「愛と信仰」とに依つて固く結ばれたキズナは、決して解ける事なく、愈々固く、しつかりと岸に緊き止めていて下さいました。私は今や、私自身を守るだけの武器を失わずに持ち続けて居ることを識つて、心から神に感謝せずには居られません。



私は、私達人間にとつて唯一無二の天父なる神様が始終私共を見守り給う事を識つて居ります。そして、私共が心から呼び求める時、彼は私共の言葉を聞き給ひ、常に明瞭で正確な御答えを下さいます。イエスは、私共の長兄であり、真にキリストであります。そして、私共は現在もなお、近代の眞の予言者ジョセフ・スミスの手を通じてこの末日に回復された地上唯一教会に集つています。従つてこの地上に於ける凡ゆる歴史は、神様の御意に成る最大の偉業「救いの計画」の一部であり、私共が、この御計画に則り完成への道に専心しつゝある事も又、共に不動の事実であります。

私は、今や以上の事実から「何を為すべきか」を識つて居ります。現在私は、私の全身全霊を通して、「私が現在ある事」を感謝し、満足感に充されて居ります。

最後に、私がこの章を書き綴る間中、絶えず御霊の御導きのありました事を心から感謝し、この偉業の故に日夜従事される愛する兄弟達一人一人の上に神様の限りなき祝福があります様に、心より祈りつゝこの証詞の全部を、主イエスキリストの御名によつて申します。アーメン

天父なる神に感謝す

三宮支部 前芝 康夫

神の導き、フーバー、ダルトン長老の神権により、神、イエスキリスト、聖霊、ジョセフ・スミス、末日聖徒イエスキリスト教会、聖書、モルモン経典、教義と聖約について学び、全てを信じる証詞と、神の王子たる自覚をもち、人生の目的、光明、希望を見出し、神の教えに従ひ、祈り、聖霊の力、会員の力強い証詞により信仰を強め、十一月十七日、天王川の清らかな流れにて、フーバー地方部長によりバプテスマを、アンドラス伝道部長による按手礼の儀式をうけ、会員として、義しい生活を続けることが出来ますことを、天父なる神に心から感謝します。

私は天父なる神は、肉体をもつて永遠に実在し、我々を救わんため、御子イエスキリストを降臨させ、我々の贖主、救主とした。又ジョセフ・スミスは近代の予言者であり、聖書モルモン経典、教義と聖約及び高価なる真珠は福音を伝える聖典であり、また信仰厚く、神の御前にへり下り、掟を護ることに、永遠の生命と幸福を得ることが出来ることを心から証します。以上全て主イエスキリストの

御名を通じ述べました。アーメン

大神権者となりて

西宮支部 植村茂夫



一九五七年十一月十七日、この日は永遠の日として私個人の内腑に刻みつけられた。主は私をも選

びたまいてメルケゼデク神権を与え給うたのです。

一九五五年四月十一日私は主の導きにあい心に誓つて主の御前にへりくだりその厳肅なる契約を結んだのです。私はその以前より神の存在を認めていました。しかしその神が私の父であり、創造主であり、主ける存在であり、キリストが私の贖い主、救い主であるということは大きな驚きであり、大発見でもあつた。私にはそれが事実かどうかを考え試みる気持はなかつた。唯それを事実として受け入れ、ジョセフスミスはその偉大な証人として信じてきました。

私の生活と思想と性格は大きく回転しはじめた。自分が試験に出合うたびに信仰が強められ、自分の信じているものが真理であり、間違いないものであることを知りました。信じているも

のが確信となり、強い証となり、聖霊の力を実際に経験し、神とキリストを信仰を通して知り身近に感じました。自分は自分が進歩していることを知つた。一段々階段を昇つていくように信仰も進んだ。自分は辛抱だと思つた。この道に入ることによつてのみ受ける苦しみは今でも絶えず自分についてまわつて居る。この種々の苦しみの中にあつて見出した答は全て教義の中や幹部の話の中であり、更に強い確証をもつて愈々私は末日聖徒イエス・キリスト教会を其の教会として受入れることができました。私は今、心より神を証できます。キリストが唯一の全人類の救い主、贖い主であることを強く証します。全てこれは真理です。私は神の救いの計画を心より支持し、感謝しております。私とその救いの計画にそつて歩んでいることを知つています。私が恵まれて長老に聖任されたのも救いの計画の一部であり、私は神の如く完成された人間に少しでも近づけ得た事、今からも益々進歩出来ることを知つていますので、私はそれにたまらない希望と喜びをもつています。そして日々が幸で感謝に満たされてきています。神の大きな御手の中で私は生活心より喜び、声を大きくしてそれを主張します。そして多くの人々に神様の実在と福音と自分の得た幸福と喜びを伝えたい。

神に選ばれた大神権の保持者として、全て神の御意の儘に、ならんことを祈つて御霊の導きに常に従えるよう常に正しい自分を保ちたい。

凡ての善き賜物とは、上より、もろもろの光の父より降るなり。父は愛ることなく、また回轉の影もなき者なり。

(ヤコブ書 一章 十七節)

私は貧乏だけれど、神様に何を差し上げることが出来ましようか。

若し私が羊飼であれば、小羊を差し上げましよう。

又私が博士であれば、博士たちのようなことが出来るでしよう。

けれども、私は何を差し上げることが出来ますましようか。

私は私の心を差し上げるのです。

クリスチアナ ロゼツテイ

贈物を受けて一番うれしいと思ふ時は、贈る人がいつも一番大切にしているものを贈つてくれた時である。

オザワト作「ヘロイデス」より

若き末日聖徒の為の

モルモン經物語

渡部正雄 訳
石山正江 画

エマ・マー・ビーターソン著

才十章 黄銅版

(ニーファイ第一書第三章及第四章)
主なる神さまはリーハイとその家族を約束の地に伴って大いなる民になさるうと計画されました。けれども彼は彼等がそこに着いてからもつづけて主なる神さまを礼拝しその誠命を守ることを望まれました。

昔の予言者たちの多くの教えはユダヤ人が保存している聖文の中に含まれておりました。主なる神さまはリーハイに彼及び彼の民が予言者たちの教えをよくよむ事が出来るようにその聖文を彼の旅に持って行くように望まれました。昔には記録はいろいろな方法で保存されました。或ものはやわらかい粘土の上に書かれそれをやいて固くしたものであります。又他のものは沼地に生えるあし又はい草によつてつくられた紙のようなペピルスの上にインクで書かれました。多くのものは金又は黄銅の版の上に刻みつけられました。

りませんでした。リーバンは予言者の教え及ユダヤ人の歴史を含まない黄銅版を持って居りました。それはリーハイ及其の家族をも含める家族の記録をも含んで居りました。

リーハイは彼の忠実な息子ニーファイにこの主なる神さまの新しい誠命をお告げ彼ニーファイ及其の兄弟たちが町に戻って記録を取って荒野に居る彼のもとに持って来るように頼みました。リーハイが彼等がどのようにせねばならぬかを説明した時、ニーファイは喜んで行く事に同意し、

「私は主なる神さまが私達がその下したまえる誠命を守る事が出来るような方法を備えなくて私達に誠命を下す事がないことを知って居ります」と言いました。

これを聞いたリーハイは大変喜んで四人の息子たちを旅立たせました。彼等はエルサレムに近い時、彼等の内誰が記録を取りにリーバンの家に行くかくじをひい



て決めました。くじはリーマンにあたりました。彼は町に入つてすぐリーパンを見つけ出しました。彼が記録を頼むとリーパンは怒つて此の若者は盗人だとののしりました。リーマンは急いで後を向いて城壁の外に居る兄弟達の方に行きましました。

二人の兄たちはがっかりして記録なしで荒野のお父さんの許に帰ろうと望みました。けれどもニーファイは彼等の父親だけではなく主なる神さまが彼等を送った事を知って居りました。彼は最初に彼等が町を去る時、後に残して来た多くの財産を思い出し若しその財産をリーバンにやるならこれと交

はニーファイが殺されてレーバンと彼の下僕が今彼等の処にやつて来たのだと思いました。彼等が走り逃げようとするのでニーファイは彼等と呼びとめました。彼等は彼の声を認めて戻つて来ました。

始めてニーファイがレーバンでない事を知つたゾーラムは逃げようとしましたがニーファイは彼を捕えました。

彼はゾーラムに若しゾーラムが彼等と一緒になるならその生命をたすけるであらうと告げました。ニーファイはゾーラムが戻つて急を知らせることを望まなかつたのであります。下僕が彼等と共にリーハイの天幕に行くことに同意したので彼等は共にそこを立去つて間もなくその黄銅版を彼等の父親に手渡しました。

ニーファイはゾーラムを殺すことも又エルサレムに戻す事も欲しませんでしたので彼の信頼と友情を勝ち得ねばならぬとわかりました。ゾーラムはリーハイの家族に加はつて彼等と共に旅せねばなりません。

ニーファイはゾーラムに「たしかに主なる神さまが此の事をするように私達に命ぜられたのです。

そして私達はまじめに主なる神さまの云うことを聞かずによいでしようか？だから若しお前が進んで荒野の私のお父さんの処に来るならお前は私達と一緒に住む事が出るだろう」と言いました。

ゾーラムはニーファイの言葉を聞いて元氣を出し彼と共に行く事を約束しました。彼は又ニーファイに彼がずっとニーファイと共に行き決して逃げないことを誓いました。ニーファイはそれから彼のことについて心配しませんでした。ゾーラムは約束を守つて家族の一員となり彼等と共にアメリカに旅立ちました。

才十一章

イシメルはお召しに応ずる

(ニーファイ第一書 第七章)

リーハイとサライアは彼等の息子達が戻つて来ましたので大変喜びました。息子たちが不在の長い間彼等は心配しサライアはぶつぶつこぼし始めたのでした。彼女は夫が果して住みよい家を離れて荒野に旅するよう主なる神さまに靈感されていたかどうかを疑いました。そして又彼女は夫が息子達に危険をおかしてまでレーバンの記録を取りにやつた事が正しい事であ

つたかどうかを疑いました。けれども息子達が天幕に帰つて来た時、サライアは自分が不平をこぼした事をすまなく思いました。彼等が戻つて来たので喜びに布たされたサライアは、リーファイに向つて「今こそ私は主なる神さまが貴方に命じて私共一家を荒野に導いたのである事を確に知りました」と告げました。

彼女は又主なる神さまが彼等の息子達を守りレーバンの手より彼等を救出した事を知りました。家族たちは再び主なる神さまに犠牲を捧げて彼の祝福に対し感謝の意を現わしました。

リーハイはレーバンの版を読むのを待ちこがれて居りました。彼は息子たちの帰りを喜び迎え主なる神さまに捧げものをするとすぐ



それをよみ始めました。彼はそれが天地創造をかいたモーゼの書や又アダムとイヴの物語りなどをも含んでいることを知りました。そこには又ユダヤの予言者たちの多くの予言も記されてありました。リトハイはこれらを変貴重なものとししました。彼は彼自身の民の系図を見出し彼が又エジプトに売られたヨセフの子孫であることを発見致しました。

此の記録を保存していたレーバンも又ヨセフの子孫である事を発見した事は奇妙な事でした。ですからリトハイとレーバンは親戚であつたのです。

リトハイは主なる神さまがニーフアイが此の記録を手に入れるのを援けた事を更に強く感謝しました。主なる神さまのみたまにみたまされたリトハイは此の黄銅版の記録が永久に残り決して如何に時がたつてもすたれないであろうことを予言致しました。

主なる神さまは再びリトハイに語つて彼やその妻及び息子たちが只一族だけで旅する事は私の思いにかなわぬとお告げになりました。息子たちは約束の地に着いた時彼等自身の家族を育てる事が

出来るよう妻たちを持つべきでありました。

エルサレムに義人で数人の娘を持つインメルと云う人が居りました。若しインメルと彼の家族が彼等に参加したらリトハイの息子たちとインメルの娘たちは結婚することが出来るでありました。ですから主なる神さまは少年たちが再びエルサレムに行つてインメルと彼の家族を荒野に連れて来るようお命じになりました。

彼等は町に着くとインメルの家に寄つて彼等の旅行について語りました。主なる神さまはその心たまをインメルの上に注いで彼の心をやわらげましたので彼は少年たちの語つた事をすべて信じ彼の家族と共に彼等に加はることに同意しました。

町を離れてからレーマンとレミユエル及インメルの二人の娘たちが叛きました。彼等は都会生活の享樂にあこがれました。彼等は荒野の困難をいとひエルサレムに帰ることを決心致しました。

ニーフアイは彼等を強くたしなめ此の旅行は主なる神さま自らの御命令であることを彼等に告げました。彼は彼等に彼等が天使を見

た事及レーバンの手から救出された事を思出させました。兄たちは又大変怒つてニーフアイを捕え

ました。彼等は彼を縛でしばつて殺すぞとおどかしました。彼等は彼を荒野に置きざりにして野獣に食わせてしまおうと企らみました。きつくしばられて地に横えられたニーフアイは主なる神さまに力をあたえて下さるようにお祈り致しました。そうすると彼の手足の

繩がほどけて彼は驚く兄弟たちの前に立上つて又前のように彼等に語りました。レーマンとレミユエルは再び彼を捕えて前よりも強くしばろうとしましたがインメルの娘の一人が怒つた兄達に彼をほおつておくように頼みました。

彼女のお母さん及兄弟も兄たちにニーフアイを行かせるように頼みました。遂に彼等はその通りして再び旅を続け安全にリトハイの天幕に着きました。

レーマンとレミユエルはその後このことを大変悔改めてニーフアイに許しを乞ひました。彼等は彼の前に頭さえ下げて彼等が彼に對してなした事を許してくれるように頼みました。

其後ニーフアイは此の事を記して「私は彼等のなした事をあつさり許して更に彼等が彼等の神である主なる神さまにそのお許しを祈るようすすめました。そして彼等はその通り致しました」と云つています。

彼等はリトハイの天幕に着いた時皆共にその安全な到着を喜び主なる神さまにその祝福に感謝して捧物を致しました。

レーマンとレミユエルは、此の時そのようにへりくだつたのです。彼等の悔改めはながつづきせず彼等は間もなく又ニーフアイと彼等の父リトハイに叛き始めました。

第十一章

ニーフアイの示現

(ニーフアイ第一書第九章(第十五章))

主なる神さまは、ニーフアイに彼の民の記録を保存するようにお命じになりました。それは幾世紀も保存されるようにつくられねばならぬ。そこでニーフアイは薄い金版をつくりそれをつづつて本をつくりました。その金版の上に彼は記録を刻み込みました。

ニーフアイが書いた素晴らしい事の一つは主なる神さまより彼に与えられた大いなる示現でありまし

た。彼は救主の誕生及び彼の母親となる美しい乙女マリヤの時代となるであろうバレスタインの地を見せられたのであります。

後に彼はマリヤがその子イエスを彼女の腕に抱いているのを見ました。

次の示現には、救主の前に遣わされて準備をしたバプテスマのヨハネを見せられました。彼はイエスがヨハネにバプテスマをほどこしバプテスマの後、聖霊がはどのようにに天から降りて来たのを見ました。彼は、イエスが十二使徒を選び彼等が全地を歩きまわって福音を説き病人をなおし悪鬼を追出して見せるのを見せられました。

それから彼はイエスが十字架にかけられすべての人の罪の為に死んだのを見ました。イエスが殺されたから人々が主なる神さまの使徒に対し戦っている示現が現われま

した。ニーフアイの示現は更にリーハイが彼等を導いた約束の地に迄続きました。レーマンとレミユエルと其の妻たちがニーフアイやサム及び其の家族達と分れて別な民となってしまうことが知らされました。彼等は悪くなつた為に呪われ

て黒い皮膚となりレーマン人として知られるようになりました。

此の示現にニーフアイ人（ニーフアイ及びサムの子孫がこう呼ばれた）の将来の歴史も又示されました。彼は二つの民が戦つてその戦鬪に於て多くの生命が失われたのを見ました。又更に救主がバレスタインで復活してから後ニーフアイ人の間に現れるであろうことも知らされました。そして又ニーフアイ人もレーマン人も共に彼の教えに改宗しみんな一つの楽しい平和な民となるであろうことも知らされました。この平和の期間は二百年間続きました。

その後或人々が悪くなりましてしよう。彼等はレーマン人の名を称えるであります。そして彼等の皮膚は再び黒くなるでしょう。最後にニーフアイは、レーマン人がニーフアイ人を亡ぼすのを見ました。そして彼等は暗い偶像と罪に汚れた民となりました。

次に示現はヨーロッパの民と神のみたまの降つた人を示しました。靈感された彼は海を渡つて約束の地に来て彼がインデアンと呼んだところのレーマン人を始めて見ました。この人はアメリカを発見し

たコロンブスでありました。

他の人々が彼に従つて約束の地に来てアメリカとして知られるようになった大きな国を建てました。これ等殖民地の人々は母国に叛いて戦いました。主なる神さまは彼等を祝福して彼等を援け母国の異邦人より彼等の自由を克ち取らせました。殖民者たちは全土に拡がりインデアンを追いつめて行きま

した。インデアン又はレーマン人は、彼等自身を防ぐことが出来ず遂に無援孤立の民となつてしまいました。

主なる神さまはニーフアイに全世界の歴史の最後迄見せましたがそれを全部書くことを許しませんでした。主なる神さまは若い予言者に使徒の一人である主なる神さまの他の僕が他の部分を書くであろうと告げました。此の人はイエスの愛する弟子ヨハネで或時は又啓示者と呼ばれました。ニーフアイは彼の兄弟たちに示現に就て語り彼等に彼が示現で見た彼等の上にもたらされた呪いを蒙らないよう叛かないで誠命を守るように勸告しました。兄弟たちは注意深くニーフアイの云うことを聞き彼を信じました。彼等はへりくだつて

主なる神さまに仕えたいと言いました。この事はニーフアイを大変幸福にしました。リーハイの息子たちはそれぞれインメルと結婚し彼等と一緒にになったゾーラムは家族中で一番年長の娘と結婚しました。結婚後主なる神さまは再びリーハイに語つて慇々約束の地に向つてもう一度長い旅を続ける時が来たとお告げになりました。翌朝リーハイは彼の天幕の外に黄銅で造つた円い球を発見しました。球の中に二本の針があり丁度コンパスのように彼等が向うべき旅の方向を示して居りました。彼等は食糧を集め天幕をたたんで旅立ちました。彼等は旅の道中に於て更に多くの食糧を必要と致しましたので若者たちは弓矢をつくつて荒野で狩猟しました。

一九五八年 一月一日 発行
第二巻第一号 (定価三十円)
発行人 ポール・C・アンドラス
編集人 高木 富五郎
発行所 東京都港区麻布区尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部 極東 伝道 部

